

〈東北・新潟の活性化応援プログラム〉 2022年 助成団体活動成果レポート

助成団体

下北ジオパークガイドの会

青森県むつ市

プロジェクト名

下北ジオパークガイド ～地元へ、そして世界へ～

■下北ジオパークとは？

大地と自然、そしてそこに生きる人々のつながりを学び、地球をまるごと楽しむ場所がジオパークであり、青森県下北半島に所在するむつ市、大間町、東通村、風間浦村、佐井村の5市町村で取り組んでいるのが下北ジオパークです。

下北ジオパークは、日本ジオパークのひとつとして平成28(2016)年9月に認定されました。その後、当地を訪れる皆様に下北ジオパークの魅力を案内するガイド組織として、平成31(2019)年4月に私ども下北ジオパークガイドの会が発足しました。

下北ジオパークは令和3(2021)年2月に日本ジオパークとして再認定されました。また、地域住民の下北ジオパークの認知度は90%を超えております。さらに、地域学習に下北ジオパークを活用する学校等も90%を超えており、ジオパークが地域に根付いていると言えます。

■当団体の紹介

ユネスコ世界ジオパーク認定を目指し、下北ジオパークを活用したガイド活動や地域の魅力発信に取り組んでいます。下北ジオパークに関する地元住民等へのさらなる理解浸透を図るため、リモートツアーの企画やオンラインを活用したガイド研修を実施し、地域間交流の拡大を目指しています。



■背景・目的は？

下北ジオパークは、ユネスコ世界ジオパークの認定を目指しており、その達成のために各分野でのレベルアップが求められています。中でも、ガイドのスキルアップやお客様の受け入れ態勢の整備・強化などが課題となっています。

これらの課題を解消する手段として、プロジェクトの実行による地元住民の下北ジオパークに対する理解促進のほか、世界ジオパークへの応援機運を高めることを目標としています。

■具体的な活動は？

①ジオパーク深掘りツアーの実施

■実施日：令和5年7月30日(日)

■実施場所：下北ジオパークを巡る下北半島全域

■参加人数：参加対象者を小学生とその保護者1組として10組20名を募集しましたが、結果として7組14名から申込みがありました。しかし、直前のキャンセルにより実際の参加者は6組12名となりました。

■ツアーコース：大畑八幡宮、大間崎、北部海岸、野牛漁港、尻屋崎など

■実施内容：

これまで下北ジオパークガイドの会では、あらかじめ決められた場所への派遣という形でガイド依頼を受けていましたが、今回のモニターツアーでは企画から催行に至るすべてをガイド自身が行いました。

参加者の募集では、チラシを下北地域内の小学校に配布して周知を行い、さらに下北ジオパーク推進協議会様のホームページやSNSを通じて情報発信を行いました。

企画段階では、ガイド自身が紹介・案内したいスポットを選定するとともに、参加者目線に立ち、「どのようにすれば楽しんでいただけるか」を主眼に議論を重ねました。また、訪問場所や昼食場所、関係者との連絡調整もガイド自身が行い、苦労しながらも受け入れ態勢を整えました。

ツアー当日は、担当ごとに班を編成し、逐一連絡を取り合いながらスムーズに進行できるよう努め、当初予定した行程を滞りなく実施しました。当日は30度を超す炎天下でしたが、参加者の様子を見ながら休憩を多く取るなど、柔軟に対応しました。

また、ツアー中はガイドが一方向的に説明するだけでなく、ホタテのほよきや海岸での砂鉄採取といった親子で楽しめる体験時間を設けたところ、参加者から大変好評をいただきました。

■参加者の声：

アンケート結果では「満足」との回答がほとんどでしたが、「時間が長すぎる」といった意見もあり、改善点が明らかになりました。今後は、参加者の体力に見合ったツアーコースの策定が必要であると認識しました。

②備品の整備

【ワイヤレス拡声器の購入】

屋外でのガイド活動が主であり、大人数を一度に案内する機会が多いため、当会ではワイヤレス拡声器を活用してきました。しかし、長年の使用により機器が老朽化し、一部は故障して使用できない状態でした。

今回の助成金を活用して新たに5台を購入したことで、地域の小中学校からの校外学習依頼にも大人数対応が可能となりました。その結果、令和5年度には、前年度比11%増となる延べ1,353名の生徒・児童にガイド案内を行うことができました。

▼案内人数

令和4年度：17回で延べ1,216名

令和5年度：22回で延べ1,353名

【タブレット端末の購入】

これまで紙媒体のアナログ資料を主に活用してきましたが、荷物が嵩張ることや、情報更新時に資料の作り直しが必要といった課題がありました。これらを解消するため、タブレット端末を導入しました。タブレット端末は、大量の写真データを格納できるほか、動画を用いたガイドも可能となり、参加者の理解促進が期待されています。

一方で、タブレット端末の活用にはガイド自身が使いこなせるかという課題も残ります。今後も会員同士で技術を磨き合い、アナログ資料も併用しながらお客様をお迎えたいと考えています。



タブレットを活用してガイド



ワイヤレス拡声器で大人数に対応



モニターツアーで野牛漁港へ



北部海岸を歩く

■活動の成果は？

私たちは、下北ジオパークの魅力を自ら見つめ直し、モニターツアーの企画・運営を通じて、これまでの「ガイド依頼への対応のみ」というレベルからステップアップすることができました。このような活動を内外に発信することで、ガイドスキルの向上はもとより、お客様の受け入れ態勢の整備にもつなげることができました。

また、令和6年度に開催される「第14回日本ジオパーク全国大会下北大会」においては、その前後期間にジオパークを巡るツアーが予定されていますが、モニターツアーを実施したことで、ガイド案内の時間配分や、お客様の立場になって物事を考える重要性など、自らが企画・運営したからこそ得られる貴重な学びがありました。

加えて、助成金を活用することで資機材を整備し、地域の皆様、そして全国からのお客様のご要望に応じたガイド案内が可能になったと考えています。

今回の助成金があったからこそ、モニターツアーの実施や資機材の整備を実現することができました。

当会は自主財源が乏しく、新規事業を始めようとしても資金不足で企画段階で止まってしまうことが多々ありました。また、資機材についても壊れかけたものをだまだまし使用している状況でしたが、助成金を活用してこれらを刷新することができました。

この成果は、当会の日常的な活動にとどまらず、今後のユネスコ世界ジオパーク認定に向けた取り組みを進める上でも大きな助けとなると期待しています。



親子で下北をめぐる



ほたてのほやき体験



砂鉄採取に興味津々



寒立馬を間近に

団体からのコメント

下北ジオパークのユネスコ世界ジオパークへの認定の一助となるよう、ガイドスキルの向上のため研鑽に努めるとともに、当地を訪れるお客様への充実したガイド案内を続けてまいります。

当面の目標としては、来年度開催される日本ジオパーク全国大会におけるジオツアーの成功です。

財務面については、活動資金が不足している状況です。収入源としては、会費やガイド手数料のほか、関連団体からの補助金が主なものですが、その多くを補助金が占めているため、自主財源が乏しい状況です。

人員面については、構成員の平均年齢が60歳を超えており、今後を担うガイドの不足が懸念されています。

自主財源を獲得するために、一般のお客様や旅行会社などからのガイド依頼を積極的に受け入れるとともに、能動的な営業活動を行ってまいります。

また、新たなガイドを育成するために、関係団体と連携し、下北ジオパークに関する勉強会の開催やガイド研修会の実施を通じて、下北ジオパークの魅力を発信しながら新規ガイドの獲得に努めてまいります。